

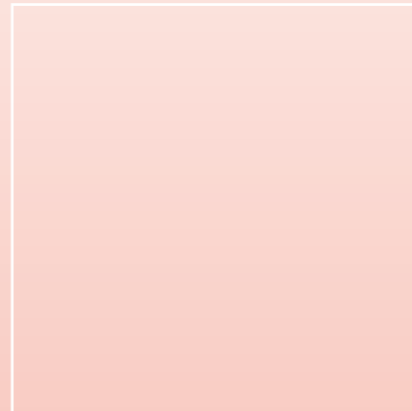


高砂市歴史文化基本構想

高砂市教育委員会



高砂市歴史文化基本構想



高砂市教育委員会

高砂市歴史文化基本構想

平成23年3月

高砂市教育委員会



あいさつ

高砂市は、長い年月をかけて、現在の都市基盤を築いてきました。そうした中、平成23年3月に、第4次高砂市総合計画を策定し、将来目標像に「郷土に学び未来を拓く 生活文化都市」を掲げました。「健康」「環境」「文化」をキーワードに、市民参画・協働のまちづくりを進めてまいります。

なかでも、「文化」に親しみ、活動することは、感性を豊かにし、心と体の健やかさを高め、ひいては暮らしに豊かさをもたらします。また、市民が活動を通じてお互いに理解し、尊重しあう風土を育むことによって、全ての世代にわたって、地域への愛情やきずなを深め、相互の交流を促します。文化振興を図ることで、地域活力を創出し、まちの活力を生み出す地域振興につなげていくことができます。

文化による地域振興を図るためには、先人たちが歩んできた歴史や、生活の中でつちかわれてきた文化を再認識し、将来に向けて、保存、継承、発展させることが重要です。地域に残る貴重な歴史文化資源を再発見し、市民共有の財産として位置づけ、新たな文化の創出に向けた、ふるさと意識あふれるまちづくりを行うことが、今生きる私たちに課せられた役割のひとつだと考えています。

それが、高砂市の魅力を高め、ふるさとを見直し、住んでいるまちを誇りとして感じるすることができます。そのためにも、この高砂市歴史文化基本構想をもとに、行政が組織の垣根を超えて実践し、市民や団体と一体となって、歴史文化を活かしたまちづくりを推進していきます。

最後になりましたが、高砂市歴史文化基本構想の策定にあたり、多大なご尽力をいただいた関係各位に、心から感謝申し上げます。

平成23年3月

高砂市長 登 幸人

序

高砂市のあゆみを振り返ると、先人たちが営んできた知恵と財産を受け継ぎながら、今日のわたしたちの暮らしが成り立っていることがわかります。

平成22年4月には、教育振興基本計画を策定し、「ふるさと高砂を愛し、思いやりとたくましさに満ちあふれた人づくり」を基本方針として掲げました。自分が生まれたふるさとを愛し、誇りに思い、お互いに思いやり、たくましく生きる力を身につけ、自ら学んだことを積極的に活かすことができる、人づくりを目指そうとするものです。

その基本方針のもとで、ふるさと高砂を学習する機会を、教材等を通じて教育課程にもりこみ、子どもたちがふるさと高砂のよさや先人たちの足跡をたどることで、高砂を愛する心を育みます。

このたび、文化庁から委託を受け、文化財総合的把握モデル事業を実施し、ここに、歴史文化基本構想を策定しました。文化財は、地域の歴史を理解し、郷土に対する愛着を深め豊かな心を育むために大切に保存活用すべきものです。そのためには、高砂市の歴史文化の特性を総合的に把握し、その成果を市民と共有し、活用を図っていくことが必要です。それが、地域に誇りを見だし、豊かな暮らしにつながり、教育をとおした人づくりに活かすことができますし、歴史文化を活かした人づくりは、地域のまちづくり発展につなげることができます。今後、本構想及び委員会提言に沿って、より発展的な人づくりにまい進していく覚悟であります。

最後になりましたが、本構想策定の機会と、多くのご指導、ご支援を賜りました文化庁及び兵庫県教育委員会に、厚く御礼申し上げます。また、高砂市歴史文化基本構想策定委員会の各委員、文化財調査専門部会の各専門委員のみなさま、ならびに関係各位にご協力、ご尽力を賜りました。誠にありがとうございました。

平成23年3月

高砂市教育長 佃 昌典

高砂市歴史文化基本構想 目次

はじめに	1
1. 高砂市歴史文化基本構想について	3
(1) 考え方の背景	
(2) 計画の位置づけ	
(3) 構想の期間、見直し	
2. 高砂市のあゆみ	5
(1) 高砂市の位置、地勢	
(2) 高砂市の歴史(通史)	
(3) 高砂市の歴史文化の特徴	
3. 高砂市歴史文化基本構想の基本方針	27
(1) 高砂市の将来目標像と歴史文化基本構想の基本理念	
(2) 歴史文化の保存活用に向けた基本的方策	
4. 高砂市の歴史文化を見直す効果的な視点(テーマ)	30
(1) 高砂市の歴史文化を見直すテーマと関連文化財群	
(2) 4つのテーマからみた高砂市の歴史文化のストーリー	
5. 関連文化財群の保存活用区域	49
6. 関連文化財群の保存活用	52
(1) 保存の基本的な考え方	
(2) 活用の基本的な考え方	
(3) 関連文化財群の保存活用方策	
7. 高砂市歴史文化基本構想の実現に向けた進め方	62
(1) 基本的な考え方	
(2) ひとづくり	
(3) まちづくり	
(4) 構想推進の体制づくり	
(5) 実現工程と導入事業	
「提言」～高砂市歴史文化基本構想の実現に向けて～	83

はじめに

地域の歴史文化資源は、地域の歴史や文化を物語る貴重な資源であり、地域住民のみならず国民共有の財産といえることができる。これらの歴史文化資源は、地域固有の歴史風土の中で、人々の営みとかかわりながら、また、お互いに有機的に繋がりがあいながら伝統的な意義や価値を形成してきた。歴史文化資源を社会全体で継承していくためには、このような側面を重視し、人々に地域の歴史や文化を伝えるものとして、魅力的な形でわかりやすくその価値を伝えていくことが必要である。

また、歴史文化資源は地域の個性形成の核となるものであり、歴史文化資源や歴史文化を活かしたまちづくりは、地域の魅力を増大させ、その活力の向上に寄与するものと考えられる。

このような視点を踏まえ、文部科学省に設置された文化審議会による「文化財分科会企画調査会報告書」で提言されたものが「歴史文化基本構想」である。これは、各市町村において、教育委員会など文化財保護担当部局とまちづくり担当部局が連携協力し、地域住民やNPO法人、企業等の参加を得て、歴史文化資源を核として地域全体を歴史・文化の観点からとらえ、各種施策を統合して一貫性のある取組みを行うために策定するものである。

また、こうした取組みを支援する国の新たな制度として、文部科学省(文化庁)、農林水産省、国土交通省の共管による「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律(通称:歴史まちづくり法)」が制定され、平成20年(2008)11月から施行されている。適用対象となる歴史的風致を認識するため、文化庁は地域内の文化財を総合的に把握するガイドラインの策定に向けて、平成20年から「文化財総合的把握モデル事業」を実施している。

さらに、兵庫県教育委員会では、新たな文化財保護の考え方として、平成15年度に「歴史文化遺産活用構想」を取りまとめた。文化財を含む地域の歴史・文化的な遺産を歴史文化遺産と定義し、本格化する人口減少社会において、「魅力あふれる個性の象徴」として保護・活用をはかる方向性を示した。

高砂市歴史文化基本構想は、このような動きを踏まえ、高砂市における歴史文化資源を総合的に把握しながら、高砂市固有の歴史文化の特性を捉え、将来に受け継いでいくべき方向性を明らかにするため、文化庁の「文化財総合的把握モデル事業」の採択を受け、作成したものである。

現在に至る高砂市の歩みをふりかえると、2つの要素が目立つ。ひとつは多彩な歴史性に育まれた「文化」である。高砂市は、現在に至る営みの中で、地理的特性を活かしつつ地域の個性を形成する豊かな文化を育んできた。

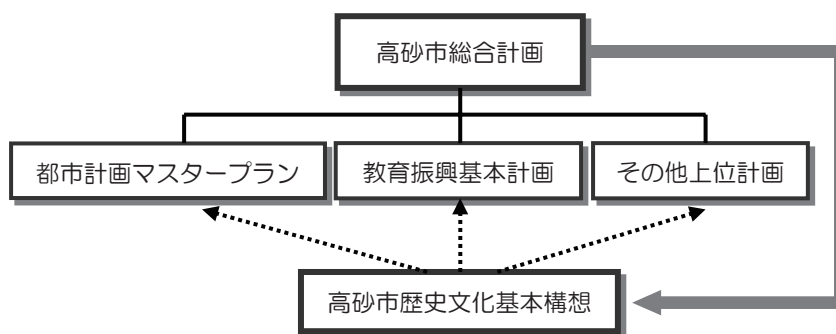
もうひとつは、近代化における都市構造の「変化」である。明治以降、積極的に近代化を推し進める企業の進出を受け入れ、工業地帯の中核都市として変貌を遂げた。鮮やかともいえる変化の軌跡は、まさに日本版の産業革命の縮図ともいえる。

そして現在、2つの要素―「文化」と「変化」はバランスを見失っている状況にある。こうした状況で、環境への急激な変化が、豊かな文化を見えにくくしている点に留意すべきと思われる。後記する市民アンケートでは、豊富な文化的資源を抱えるにもかかわらず、様々な価値観が入り混じり、高砂市民が「豊かな地域の文化」を意識しなくてもよい生活の現状が回答に表れている。一方で「美しい砂浜」や

「高砂の松」といった、旧来の風景が記憶に残り、豊かな文化が住民意識の深層に受け継がれていることも見逃せない。

高砂市が歴史文化基本構想を策定することは、近代化の中で一見大きく変貌している地域において、歴史文化資源を手がかりに地域を見直すことで、見え難くなっている豊かな歴史文化を浮かび上げさせ、将来の地域づくりに向けてしっかりとした道筋を示すことに意義がある。

文化庁による「文化財総合的把握モデル事業」に採択された 20 地域の中でも、高砂市はこうした「近代化により変貌した都市部」というカテゴリーにおいてモデルとなる地域であると考えられる。



【高砂市の上位計画との関係図】



【航空写真（竜山上空から南をのぞむ）】